

《3》 whose (所有格) の用法

④ I have a friend **whose** father is working for a TV station.

404

父親がテレビ局に勤務している友人がいる。

I have a friend. + His father is working for a TV station.

下線部 his を whose にして

→ I have a friend whose father is working for a TV station.

whose は his father の his (代名詞の所有格) の役割を果たしているので、「**所有格**」の**関係代名詞**と言う。ただし、この用法は《話》ではあまり使われない。むしろ、上に挙げたように、2文に分けて言った方がより自然である。

【!】 who / whom / whose の使い分けを考える際、whose の場合は関係詞が入る箇所の後ろに **名詞** があることが見分けるポイントになる。

例) He is a teacher () view I always respect.

彼は私がその考えにいつも敬意を払っている先生です。〔正解は whose〕

類例 That is *the girl* **whose** father was killed in the car accident.

あれが父親を交通事故で亡くした女の子です。

Ichiro was *a baseball player* **whose** popularity was enormous both in Japan and the U.S.

イチローは日米両国で絶大な人気を集める野球選手でした。

2 which (that), whose (of which) : 先行詞が「人以外」

関係代名詞の **which** と **that** は、先行詞が主として「人以外（動物を含む）もの・こと」の場合に用いる。**that** は「人」にも使えるが、普通は **who** を使う。

《1》 **which [that]** (主格) の用法



405

5 He is fixing *a bicycle* **which [that]** got a flat tire.

彼はパンクした自転車を修理している。

He is fixing a bicycle. + It got a flat tire.

下線部 it を **which** (または **that**) にして
→ He is fixing a bicycle **which** got a flat tire.

先行詞 *a bicycle* は「物」、代名詞 *it* は主語であるから、主格の関係代名詞 **which** (または **that**) を用いてつなぐことができる。



類例 This app has *many new features* **which** attract young people.

このアプリには、若者受けする多くの新機能がある。

I noticed *the sign* **which** read "Closed on Sundays."

私は「日曜閉店」と書かれた表示に目を留めた。

類例 This is *a book* (**which**) I read when I was a student.

それは私が学生時代に読んだ本です。

Cadillac is *the car* (**which**) I want to own someday.

キャデラックは、いつか手に入れたい車です。

《3》 whose [of which] (所有格) の用法

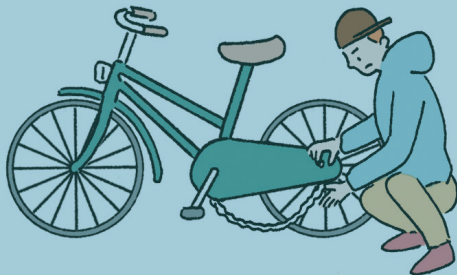
7 He is fixing *a bicycle* **whose** chain came off.

407

彼はチェーンが外れた自転車を修理している。

I'm fixing a bicycle. + Its chain came off. 下線部 its を whose にして
→ I'm fixing a bicycle whose chain came off.

※先行詞は「物」、its は所有格なので所有格の関係代名詞 whose を用いてつなぐことができる。



類例 Can you see *the car* **whose** windshield is broken?

フロントガラスが割れた車が見えるかい。

【!】 7' ≡ I'm fixing a bicycle *the chain of which* came off.

ただし、of which や whose を使った表現は《かたく》響くので使用頻度が低い。

《話》では、I'm fixing a bicycle because its chain came off. などとする方が普通。また、前置詞 with などを用いた表現もよく使われる。

△ Our teacher gave me a book **whose** title was very long. 《かたく》

○ Our teacher gave me a book **with** a long title.

先生は私に長いタイトルの本をくれました。

ここが Point! that が好まれるケース

以下の場合には、関係代名詞 **that** が使われる傾向にある。ただし (1) ~ (3) の場合でも、先行詞が「人」のときは **who** を用いることが多い。

- (1) 先行詞に**最上級の形容詞**がついている場合。
- (2) 先行詞に **the first** (最初の), **the second** (第2の), **the last** (最後の), **the only** (唯一の), **the very** (まさにその), **the same** (同じ) などがついて、唯一の対象に限定される場合。
- (3) 先行詞に **all, any, every, no** などがついていない場合 (anything, everything, nothing の場合も同様)。

All's well that ends well. 終わりよければすべてよし。〔ことわざ〕

次の場合にも、**that** が用いられる。

- (4) 先行詞が**疑問詞 who** の場合。

Who that has reason can do such a thing?

理性のある人であれば、そのようなことができるだろうか。



※逆に先行詞が **that** のときは、**which** を用いる。

The best advice I've ever had is **that which** my old teacher gave me.

私がこれまでに受けた最も有益な助言は昔の恩師からのものだ。

- (5) 先行詞が〈人+動物・もの・こと〉の場合。

Here's a story of *a woman and two cats* **that** were rescued from a burning high-rise apartment. では、高層マンションでの火災から救出された1人の女性と、2匹のネコのニュースをお届けします。

類例 1991 was *the year in which* the Soviet Union collapsed.

1991 年はソ連が崩壊した年だった。

Here is *a small desk on which* you can leave your belongings.

お手荷物はこちらの小さな机の上に置いてください。

The teammates with whom I played basketball were all friendly.

一緒にバスケットをやったチームメイトはみんな仲がよかった。

This is *the studio in which* the Beatles recorded many of their hit songs. 《かたく》ここはビートルズが数多くのヒット曲を録音したスタジオだ。

Jeff is *a master guitarist from whom* I learned a lot.

ジェフは腕利きのギタリストで、私は彼から多くのことを学んだ。



発信のヒント 句動詞と関係代名詞

look forward to ... 「…を楽しみにしている」のような句動詞の中の前置詞を切り離して、〈前置詞＋関係代名詞〉の形にすることはできない。look forward to ... はワンセットで「…を楽しみにしている」という意味。それぞれの語に分解すると、look は「見る」、forward は「前の方を」、to は「…へ」となり、これらを合体させて元の意味「…を楽しみにしている」を類推しにくい。よって、前置詞だけを切り離すことはできない。発信の際には気を付けよう。

○ the concert (**which**) I look forward to 私が楽しみにしているコンサート

× the concert to which I look forward

一方で、talk about の場合は、talk には「話す」、about には「…について」という意味で、talk about になると「…について話す」という意味ができあがることは容易に予想できる。よって、この場合は前置詞を切り離すことが可能。判断がむずかしい場合は、切り離さずに使っておこう。

○ the book *about which* we talked yesterday 《かたく》昨日私たちが話した本

○ the book (**which**) we talked about yesterday

I owe what I am to Mr. Anderson.

今の私があるのはアンダーソン先生のおかげだ。

No one can tell what Japan will be (like) in twenty years.

20年後の日本がどうなっているかはだれにもわからない。

My hearing is not quite what it used to be when I was young.

私の聴力は、若い頃と同じというわけにはいかない。

類例 What appeared to be a kitten was actually a stuffed cat.

子ネコに見えた物は実はネコのぬいぐるみだった。

What I've done is (to) send a letter of complaint.

私がやったのはクレームの手紙を出すことだ。

I can't understand what you are talking about.

君が何を言っているのかさっぱりわかりません。



What you see is what you get. 手にすることができるのは、見たままの物だ。

〔「見たままのもので、表裏は何もない」という意味の定型句。「コンピュータの画面表示とプリントアウトが同一であること」をも示し、その場合 WYSIWYG とも略される〕

You will be judged by what you have done.

あなたは自身の行いによって評価されるだろう。

【！】 what には名詞を伴う形容詞的な用法がある。このような what を関係形容詞と呼ぶことがある。可算名詞の前に few, 不可算名詞の前に little がつくことも多く、「少ないながらも（全て）」というニュアンスが含まれる。

I'll lend you what (little) money I have. ⇔ I'll lend you all the money I have. 幾らもないが有り金は全部君に貸してあげるよ。

She packed up what few clothes she had.

彼女は数少ない洋服をかばんに詰めた。

- **what we call C** (いわゆる C) (17) **cf.** **what is called C**
what we call C 私たちが C と呼ぶもの→いわゆる C
O S V
what is called C C と呼ばれているもの→いわゆる C
S V(受)

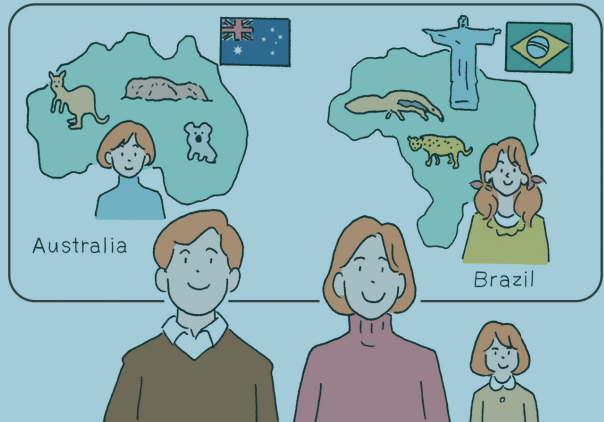
発信のヒント what we call C とコンマ



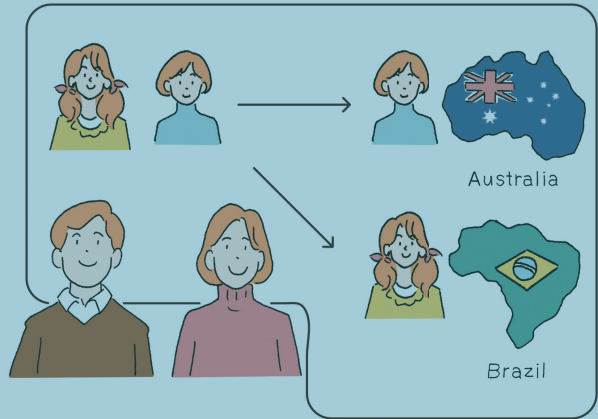
what we call C や what is called C を挿入節だと勘違いして、
 × They are, what we call, the relaxed-education generation.
 のように C の前にコンマをつけるのは間違い。この what は are の補語になっているため。
 ただし, as it were 「いわば」は挿入的に用いるので、通例コンマを伴う。
 A son, **as it were**, is a part of his father. 息子というのはいわば父親の一部だ。

制限用法では、後ろの関係詞節が前の先行詞を修飾することによって「その名詞がどういうものか」を限定する。一方、非制限用法では先行詞についての補足的情報を付け加える。関係代名詞の *that* は、原則として、非制限用法では用いない。

22は、海外留学中の2人の娘の他に、海外留学していない娘がいる可能性も暗示する。



23は、*daughters* の後にコンマがあるのでそこでいったん文が途切れ、娘が2人だけいたことを表す。続く関係詞節は、その2人の娘たちについての補足説明。*They have two daughters, and they are studying overseas.* と言いかえることも可能。



【!】 制限用法の場合は先行詞と関係詞節を区切ることなく一息で発音するのに対して、非制限用法の場合は、(意味上の途切れがあることがコンマで示されており) 関係詞節の前に軽いポーズが置かれることが多い。

24' ≡ Ken, this is Jim, and he plays the piano in my band.

25' ≡ I talked to Ms. Yamada, and her name appeared in yesterday's paper.

26' ≡ I visited Himeji Castle, and it became a World Heritage site in 1993.

27' ≡ She bought a concert ticket, and she paid 10,000 yen for it.

28' ≡ He has collected a lot of stamps, and some of them are very rare.

類例 Miki, **who** is the president of the student's council, plays the tuba in the school band. 美紀は生徒会長で、吹奏楽部でチューバを担当している。
Our family moved to a new house, **which** is very close to the station. うちの家族は新しい家に引っ越して、新居は駅のすぐ近くだ。
Prince Shotoku is an important figure in Japanese history, **about whom** very little is known. (かたい書) 聖徳太子は日本史における重要人物で、彼のことはほとんど知られていない。

My uncle, **to whom** I owe a lot, treated me just like his real son.

(かたい書) 叔父は私のことを実の息子のように扱ってくれて、彼には大変な恩がある。



More than 50 teams are nominated for the tournament, **of which** only eight will go to the final stage. (非常にかたく) 50 以上のチームがトーナメントに名を連ねており、そのうち決勝ステージに進むのは 8 チームのみだ。

28 のように先行詞が「人以外」の場合は〈... of which〉という形が使われるが、先行詞が「人」の場合は〈... of whom〉の形が使われる。なお、〈...〉の部分には、all / both / each / most / neither / some / one など主に数量を表す代名詞（名詞の一部）が来る。

There are 540 students in our school, **all of whom** are girls.

(かたい書) 我が校には 540 名の生徒がおり、その全員が女子です。

I read 10 books during the summer vacation, **some of which** were very interesting.

(かたい書) 私は夏休みに 10 冊の本を読んだが、中にはとても面白いものもあった。

We have three children, **one of whom** became a teacher.

(かたい書) うちには 3 人子どもがいて、そのうち 1 人は教員になった。

類例 Yumi came second in the school marathon, **which** was far from satisfactory.

由美は校内マラソンで 2 位でゴールしたが、とても満足のいく結果ではなかった。

【!】 この用法は、発言の後にコメントを付け加える場合にも使われる。

I saw that movie yesterday, **which** was just fantastic.

私はその映画を昨日観たが、それはただただすばらしかった。



発展 関係形容詞



非制限用法で使われる関係代名詞 **which** が、形容詞的に使われることもある。

このような **which** を **関係形容詞** と呼ぶこともある (▶ pp.316-319)。この用法では、**前置詞 + which + 名詞** の形が多い。《ややかたく》響く用法。

I received a fifth letter of rejection yesterday, at **which** point I decided to quit job hunting.

昨日 5 通目の断りの手紙を受け取って、その時点で私は就職活動をあきらめた。

前にある句や節全体を指して、「その場合は…」と補足説明をする時にも使われる。

I might get into college next year, in **which** case I have to live alone in Tokyo.

来年大学に進学するかもしれないが、その場合は東京で 1 人暮らしをすることになる。

I may be out of the office, in **which** case you can leave a memo.

私は職場にいないかもしれないが、その場合はメモを残してください。

This is the house. + Noguchi Hideyo was born there.

下線部を where にして

→ This is the house where Noguchi Hideyo was born.

上の用例では、「場所」を表す先行詞 the house を、where 以下の関係詞節が修飾している。関係代名詞を使って表すこともできる。

This is the house **where** Noguchi Hideyo was born.

This is the house **which** Noguchi Hideyo was born **in**.

This is the house **in which** Noguchi Hideyo was born.

これら 3 つの表現は下へ行けば行くほど《かたく》なる。



類例 My son got into *the town* **where** I used to live.

息子は私がかつて住んでいた町に引っ越した。

【!】 where は場所を表す語だけでなく situation（状況）、point（時点）、case（場合）などを先行詞とすることができる。

We're in *a situation* **where** all our lives are in danger.

私たちは、全員の命が危機にさらされているという状況に置かれている。

Unfortunately, there are *cases* **where** foreigners get treated differently.

残念ながら、外国人が異なる扱いを受けるケースもある。

We're in a crucial situation, at *the point* **where** no more mistakes are allowed.

私たちは重大な局面にあり、ここに及んではこれ以上の失敗は許されない。

《2》 when

32 I clearly remember *the day* **when** my daughter was born. 432

私は娘が生まれた日のことを鮮明に覚えている。

I clearly remember the day. + My daughter was born then.

下線部を when にして

→ I clearly remember the day **when** my daughter was born.

関係副詞 when は day, time, year など「時」を表す先行詞をとり、その時について説明を加える。



類例 1923 was *the year* **when** the Great Kanto Earthquake happened.

1923 年は関東大震災が起こった年だ。

【!】 where の場合と同様、先行詞が明らかに「時」を意味する先行詞の場合、that が when の代わりとして、関係副詞的に使われることもある。この that は省略することもできる。自信がなければ丁寧に when を使っておこう。ただし、省略した方が《くだけて》響く。

I was only two on *the day* (**that**) President Kennedy was assassinated.
ケネディ大統領が暗殺されたとき、私はわずか 2 歳だった。

【!】 関係詞節は先行詞の直後にくのが一般的だが、直後に置くと主語が長くなりすぎる場合に、主語を軽くするため後ろに置かれることもある。

Surely *the time* will come **when** you will forget about your lost love.
君が失恋の痛手を忘れられるときがきっといつか来るだろう。

The day will come **when** your dreams will come true.
君の夢が実現する日が来るだろう。

《3》 why

33 That's *the reason* **why** he was accepted to the University of Tokyo.

それが、彼が東京大学に合格できた理由だ。

433

関係副詞 why は reason を先行詞にとり、理由について説明を加えるときに使われる。

類例 There is *no reason* **why** I have to apologize to you.

君に謝らなければならない理由はない。

【!】 that が why の代わりとして、関係副詞的に使われることもある。

ただし、この that はしばしば省略される。

33' ≡ That's *the reason* (**that**) he was accepted to ...

《かたい書》では〈前置詞＋関係代名詞〉の形が用いられることがある。

Pain is one of the most common reasons **for which** individuals visit the doctor.

医者にかかる理由として、最も一般的なもののひとつが痛みである。

I understand the reason **for which** she did it.

彼女がそんなことをやった理由は、私には理解できる。



ここが Point! the way SV ... 「…する方法, やり方, 様子」

the way と S の間に in which を補って考えてもよいが, how と同じように関係副詞的に捉えてやるとわかりやすいことも多い。

I don't like **the way** she talks. 彼女のしゃべり方は好きじゃない。

This is **the way** we wash our hands. こんな風に手は洗うんですよ。

ちなみに, ビリー・ジョエルの名曲に「素顔のままで」という曲があるが, 原題は **Just the Way You Are** である。the way you are とは「あなたのそのままの様子」という意味で, 「そのままの君, ありのままの君を受け入れるよ」という主旨のラブソング。

接続詞と副詞を使って、上の例文を次のように言いかえることもできる。

38' ≡ He went to Hakodate, **and there** we enjoyed the night view from the mountaintop.

39' ≡ My uncle was born in 1972, **and then** the Winter Olympics were held in Sapporo.

【！】 節全体が関係副詞の先行詞となる場合がある。この **when** は接続詞とみなすこともできる。

*I was driving home, **when** I heard the news on the radio that a massive earthquake had hit Indonesia.* 家に向かって運転していたら、インドネシアを大地震が襲ったとのニュースをラジオで聞いた。



《1》名詞節を導く用法

40 **Whoever** visits this temple will be impressed with the view. 440

この寺院を訪ねる人は誰も皆、その眺めに感銘を受けるだろう。

41 You can take **whichever** you want. どちらでも好きなものを選びなさい。441

42 Order **whatever** you like. 何でも好きなものを注文しなさい。442

複合関係代名詞 **whoever**, **whichever**, **whatever** は、それぞれ「…する人は誰でも」「…するものはどれでも」「…するものは何でも」を表し、名詞節を導く。文中で主語・目的語・前置詞の目的語となる。上例40では主語、41 42では目的語として使われている。

類例 **Whoever** wants to come to my party is welcome.

我が家のパーティにお越しになりたい方は、どなたでも歓迎します。

※関係詞節中では **whoever** は主語で単数扱い。

Whoever was hired last will be fired first.

最後に雇用された者が、最初に解雇される。〔アメリカの伝統的な雇用原則〕

cf. Last hired, first fired. 最後に雇われたら、最初に解雇される。

“Which do you want, red one or blue one?” “**Whichever** is fine.”

「赤いのと青いのと、どちらがいいですか」「どっちでもいいよ」

Whatever is in my way, I'll get rid of it.

行く手に何があろうとも、私はそれを排除する。

Good friends are important, **whoever** you are.

どんな人にとっても、良い友達は重要だ。



複合関係詞を普通の関係詞を用いて言いかえても、ほぼ同義である。

40 whoever ≡ anyone who ... …する人は誰でも

41 whichever ≡ any one that ... …するものはどれでも

42 whatever ≡ anything that ... …するものは何でも

【！】 whichever と whatever は、直後に修飾する 名詞を伴って 関係形容詞的に使われることがある。

Whichever *plan* is okay with me. どちらのプランでも、私は構いませんよ。

Just let me know **whatever** *idea* you may come up with.

思いついたら、どんなアイデアであれ私に知らせてください。

Whatever *ideas* our customers have are highly appreciated.

お客様のご意見は、どのようなものであれ大変ありがたく存じます。

※これも特段難しく考える必要はなく、疑問形容詞の **which** / **what** 「どちらの [どの] …」 が **後ろに名詞を従える** のと同じように考えればよい。

cf. **Which** *plan* is okay with you?

どちらのプランであればご都合がよろしいでしょうか。

cf. Could you tell me **what** *idea* you have come up with?

どんなアイデアが浮かんだか、お聞かせいただけませんか。